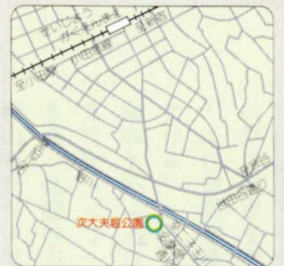




次大夫堀公園



DATA・BOARD ⑩



- ① 東京都世田谷区喜多見5丁目27
- ② 公園面積2.9ha, 水路:幅員1.5m・延長600m, 水田1,400㎡, 古い民家7,000㎡
- ③ 水路, 水田, 古い民家
- ④ 水路:荒木田土
- ⑤ お茶会, 田植え, 俳句づくり, 朝顔展, 手打ちうどん教室, お月見だんごづくり, 菊花展, 稲刈りなど

次大夫堀(六郷用水)は、江戸時代の初めに代官小泉次大夫が開いた灌漑用水路で、かつては周辺の水田を潤していた。都市化とともに使命を終えた次大夫堀を復元し、昔の世田谷の農村風景を再現したものが、次大夫堀公園である。

園内の用水路は荒木田を叩いて固める古い方式で造られ、微生物を利用して浄化した野川の水が流れている。この水を利用して都内で唯一のサケの人工孵化場では、毎年二月にサケの稚魚を多摩川に放流している。また、水田では区民の手で田植えや稲刈りも行われる。

昭和六十三年には江戸時代後期の喜多見地方の農家二棟などが復元され、次大夫堀公園民家園も開設しており、民家園では季節ごとに多彩な行事が行われ、文化継承の場ともなっている。